

## 5. 聖ヨセフは二度結婚したのですか？

聖ヨセフが以前に結婚していたと認めるだけの歴史的データは存在しない。

2016/09/28

聖マタイによると、「母マリアはヨセフと婚約していたが、二人が一緒になる前に、聖霊によって身ごもっていることが明らかになった。」

（マタイ1.18）結婚式を挙げる前であるが、ユダヤ人にとってそれは非常に強く真実な約束であるので、婚

約した二人はすでに夫婦と呼ぶことができ、その解消には離縁状が必要であった。聖マタイの福音書によれば、マリアは聖靈によって身ごもったのだ（マタイ 1.20）というヨセフに対する天使のお告げの後、結婚し同居し始めたということになる。エジプトへの逃避とエジプトからの帰還、ナザレへの定住（マタイ 2.13-23）、12歳時の両親に伴われた神殿でのエピソードは、そのことを理解させる。聖ルカはさらに、マリアへのお告げの記述で、「ダビデ家のヨセフという人の許嫁であるおとめ」とマリアを紹介した。従って、これらの福音書によれば、聖ヨセフは聖母と結婚していたことになる。これが福音書に残された確かな歴史的伝統の情報である。

ここで、もしこれが聖ヨセフにとつて二度目の結婚であったか、すでに年老いて男やもめであった聖ヨセフが聖マリアとの結婚に至らず、単に

聖マリアをおとめとして世話をして  
いたに過ぎないとする説は、伝説の  
範疇に属するものであって、なんら  
歴史的に確たる根拠はない。

この伝説についての最初の言及は、  
2世紀の「ヤコブの偽福音書」の中  
に見出される。マリアは3歳から神  
殿に留まっており、12歳になった時  
司祭たちが世話をする誰かを捜した  
というのである。民のすべての男や  
もめを集めた。ヨセフの杖から鳩が  
一羽出てくるという不思議な印が起  
こり、聖母の守護者としてヨセフが  
任せられた。しかしながら、この伝  
説によればヨセフはマリアを妻とし  
て迎え入れなかつたことになる。実  
際、天使が夢でヨセフに告げた時に  
マタイ1.20のように「恐れず妻マリ  
アを迎え入れなさい」とは言わず、  
「この乙女を恐れるな」(XIV,2)と  
言った。約6世紀にできたさらに新  
しい、「マタイによる偽福音書」と  
呼ばれる外典ではこの歴史が再構成

され、マリアは聖ヨセフと結婚したと理解しているようである。「他の誰とも結婚してはならない」(VIII,4)と司祭はヨセフに言った。しかし、一般に聖ヨセフのことを聖母の守護者として描いている。一方、マタイによる偽福音書の一種の要約である「マリア誕生の書」や「大工ヨセフの歴史」にははっきりとヨセフはマリアと結婚したと書かれている(IV, 4-5)。

従って、聖ヨセフが以前に結婚していたと認めるだけの歴史的データは存在しない。聖母と結婚したとき若い青年であり、一度だけ結婚したと考えるのが最も論理的である。

---

参考書: J. DANIELOU, *Los evangelios de la infancia*, Herder, Barcelona 1969; S. MUÑOZ IGLESIAS, *Los evangelios de la*

infancia. IV, Bac, Madrid 1990; A.  
de SANTOS, Los evangelios  
apócrifos. BAC. Madrid 1993  
(octava edición)

---

pdf | から自動的に生成されるドキュメン  
ト [https://opusdei.org/ja-jp/article/iesu-  
shitsumon-5/](https://opusdei.org/ja-jp/article/iesu-shitsumon-5/) (2026/02/15)